



「ロータリーを学ぶ！」

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー

熊澤隆樹

(小樽RC)

今、地区内でIM（都市連合会）が各グループで開催されております。これは、私の年度では、IMをロータリアンの研修の場と位置づけるように、ガバナー補佐の方々をお願いしてまいりましたが、これを受けて、様々な工夫をされた会合がもたれております。第3グループでは早々と11月5日（土）に地元出身の外交ジャーナリスト、手嶋龍一氏を招いての『北の大地、その新たな針路を考える』という演題での講演は参加者皆さんに非常に感銘を与えるものでした。第9、第11グループのIMについては、月信3月号で各々、特色のある研修がなされ、また会員の交流の場となっていることが記載されておりますのでご一読をお願いいたします。

私は、ガバナーノミニの時から、国際ロータリーに関する情報が個々の会員まで伝わりにくい組織になっている現状を見て、IMを機能させることで、これを少しでもカバーできるのではないかと考えてきました。学校で「学ぶ」という時、医系・理系では講義と実習があります。ロータリーの奉仕活動は、実践哲学といわれ、行動が伴いますので知識だけでは駄目で、奉仕の実践から学ぶことが大切であることはご承知の通りであります。1月号の月信で青木功喜会員（札幌東RC）が昨今の奉仕活動のあり方に危惧を抱かれており、決議・23-34を勉強することを問われたと私は感じておりました。しかし、ポール・ハリス自伝の「ロータリーの理想と友愛」の中で、『ロータリーが発展してさらに飛躍を見ようとするには、必ずや試練に遭遇し、あるいは錯誤に陥ることも免れない。』と過ちを恐れるなど述べております。私たちは、ひとまず国際ロータリーの会員として、RIの戦略計画（これまで長期計画）にそってクラブ運営をしていくことが、私どもに課せられていると思います。その上去年度の田中作次RI会長も、このRI戦略計画の重要性について述べております。ですから、新しい情報をしっかりと学ぶ姿勢が求められており、この戦略計画の三本柱に改めて注目して下さい。

一般会員にとって、ロータリーの知識は入会時のインフォメーション、例会での会報（ロータリー用語の学習）、炉辺会、地区協議会、地区大会、国際大会、そして各種のセミナーで得ることができます。そして、会長にはPETS（会長エレクト研修セミナー）、ガバナーにはGETS（ガバナーエレクト研修セミナー）、ロータリー研究会そして1週間にわたる国際協議会が用意されています。一般会員にとっての多くの情報は「ロータリーの友」よりもたらされます。他に「手続要覧」、「ロータリー章典」があります。一番身近な「ロータリーの友」は残念なことにこの数十年にわたって年間100万部以上のベストセラーを続けておりますが、購入されているが読まれていないのが実情です。もう少し読まれれば、ロータリアンの意識も高まり、今の会員減少の打破となる一つの道になると思っています一人であります。手続要覧の標準ロータリークラブ定款の第14条の第1節には数少ないロータリアンの義務の一つとして購読の義務が記されています。（ロータリー雑誌月間にあたり一言）

最後に嬉しい出来事があります。一つ目は、千歳RCと千歳セントラルRCが共催で3月11日の東日本大震災を風化させないと、来賓として市長・商工会議所会頭を招き、チャリティ・パーティーを開催されたこと（詳しいことは次号で）、そしてまた二つ目は、当地区財団学会が創立10周年記念祝賀会を2月11日に盛大に開催し、その場に昨年発足したばかりの日本ロータリー学友会の会長、中井田氏が福岡から来道され、来賓としてのご挨拶の中で全国一の学友会とお褒めの言葉をいただいたこと、この日の祝賀会の運営はまさに新しいロータリークラブの誕生を思わせるもので、これまで育てあげて来られた地区役員、そして学友会会員の皆様の努力に対して、改めてこの紙面を借りてお祝いを申し上げます。